大銀杏

第54号
令和6(2024)年
7月9日
藤嶺学園藤沢
中学校・高等校
新聞部
(高校)
田中湧大 植竹隼也
川村一愛 高橋航之介
古谷貴一 長谷川望人
平川慶明 高須祥栄
堀竹涼平 塩見耶摩斗
経澤悠希 稲生海凪
(中学校)
中原圭太
村瀬弘旭 石﨑航成

題字 東山右徹先生

創立一〇九周年 開校記念講演会

立川らく次師匠 立川志らら師匠 落語会

5月15日開校記念講演会が講堂にて中高生徒が集うなか行われた。今年は卒業生でもある立川らく次師匠が、立川流の兄弟子である志らら師匠とともに来校され落語会が開かれた。お二人の中高時代のお話しで場内は笑いが起こり、らく次師匠の落語「死神」は落語の迫力が伝わってきた(写真㊦)。志らら師匠「宮戸川」は「めおと、めおと」と落語の愉しさが伝わってきた(写真㊦)。話しが面白くあっという間に終演となってしまった。会の後お二方に取材した。取材は写真撮影から始まり質問に答えて頂いた。

志らら「どんなポーズにする?脱いだ方がいい?」

記者「大丈夫です。サムズアップでお願いします」

志らら「サムズアップいいねぇ」

インタビュー

らく次「新聞部に入りたいと思ったのは?ジャーナリストを目指してる?」

記者「中学生は週3日の部活動で、週2の茶道部でしたが、残り1日できる部活と考え、自由な部活と聞いて新聞部にしました。」

らく次「何でも聞いて」

記者「師匠は何をしていますか。志らく師匠は?」

志らら「たぶん家で子どもと遊んでいる。月曜はひるおび。落語家は、何曜日は何の仕事というのは基本的にない。毎日違う、暮らし方も、何月何日は何していること、場所ということも違う。北は北海道で、南は九州沖縄まで行く。

志らら「若い人、前座は、師匠の家へ朝行って、身の回りのことをすべて行っている。二つ目、真打は自分の仕事をする。」

らく次「でも師匠には、仕事をしているとか、していないとかすぐにばれる。不思議な関係。今日は、弟子が中高生に落語をしているのに、師匠は家で子どもと遊んでる。家を出ない日。」

志らら「落語家は、家を出ない日でも、家で稽古をする。稽古も仕事。僕は歩きながら覚える。メモを取りながら書いて覚える人もいる」

らく次「27年間やっているからね。歩きながらでも。最初のうちは一生懸命ね。」

記者「今日の演目は」

志らら「候補には入っていたけど。会場の様子を見てから決めた」

志らら「宮戸川ね。本当はあの続きは色々あるけど、宮戸川が出てくるから宮戸川。」

記者「らく次さんは宮戸川はできますか。」

らく次「すぐできる。すぐできる落語は10数本ある、すぐできないのは90本ぐらいある」

志らら「今日宮戸川は途中少し飛ばしてしまって。でも落語は朧気の中、噺をしていく」

らく次「落語はこれを入れれば、それ以外は自由という面はある。志らら師匠と自分の自由度は違う、それが落語。僕の場合は、御婆さんに話させたりする。演者によって同じ噺でも変わる。あと巷で言う『落ち』がない落語もある」(次号に続く)

【川村 古谷 平川 村瀬 石﨑】

第13回体育祭 優勝黄組

6月1日総合グラウンドにて第13回体育祭が中高全校生徒で行われた。結果は黄組が総合優勝を収めた。ダンスでは赤組が勝利した。また特にダンス事前練習から自発的に高3生が練習の手本となり盛り上げた青組、また高3生がリーダシップを発揮して一つにまとめ上げた黄組、6学年のチームワークのよさが見られた赤組のダンスに男子校の学年を超えた一体感を感じた。(写真㊧「高3野口真生体育祭実行委員長の挨拶」写真㊦騎馬戦大将選手宣誓、仮装競走)

【川村 村瀬 石﨑】

美術館取材 ジブリ作品を知る

6月9日新聞部は「三鷹の森ジブリ美術館」に取材に行きました。この美術館は東京都三鷹市の井の頭恩賜公園西園内にある美術館で正式名称は「三鷹市立アニメーション美術館」(写真㊦)です。スタジオジブリのアニメ監督である宮崎駿が発案し2001年設立されました。名称の通りスタジオジブリ関連の展示があり、美術館は地下1階、地上階、二階、屋上でした。

地下1階に入ると中央ホールがあり、その右手に「動き始めの部屋」があります。この部屋の入口にはまずソードロープで動く二つの電子パノラマボックスがあります。ソードロープとはびっくり盤とも言い円盤の円周上に等間隔にスリットを開け、スリットに挟まれた扇形を1コマとして動画が描かれた円盤です。円盤の裏側は黒く塗られています。円盤の中心をピンで棒に固定します。円盤の絵の描いてある面を鏡に映し、黒い面からスリット越しに鏡に映った絵をのぞき、円盤を回すと鏡に映った絵が動いて見える仕組みです。さらにもう一つジェネバ機構成ソードロープで作られたびっくり劇場というものもありました。こういった劇場のことを機械式ロボット劇場といい宮崎駿のコメントに「映画が発明されていなかったらこういう劇場が作られたかもしれない」というものがありました。さらに「動き始めの部屋」には「トトロピョンピョン」というソードロープの紙を立体物にしたものがあり、サツキとメイがトトロと一緒に大縄を跳んでいました。

さらに宮崎駿の作った「海底大冒険」「となりのトトロ」「鏡の国」「水グモもんもん」「雲の道」「毛虫のボロ」「カエルは十匹?」という7つのパノラマボックスも展示されていました。因みにパノラマボックスとは「7から10枚のガラスに描かれた絵を重ね並べて箱のなかに奥行きを生み出している箱型の展示物のこと」です。

続いて映像展示室「土星座」です。土星座は定員80名程の小さな映画館で、月替わりで短編アニメーション映画が公開されています。

6月の映画は「星を買った日」でした。「星を買った日」は「耳をすませば」などで美術背景を制作したイラストレーターの井上直久の絵画で、イバラードの世界観が元にされており、キャストは神木隆之介、鈴木京香、若山弦蔵、大泉洋でした。ストーリーは「人々の時間の使い方を監督する時間局から逃れる為に都会の家を飛び出した主人公の少年ノナは、ある田舎『イバラード』で不思議な女性ニーニャと出会い、彼女の農園で新しい生活を始めます。ある日、モグラとカエルの姿をした行商人スコッペロとメーキンソーと出会ったノナは、自分の育てたカブを彼らの売り物である小さな星の種と交換する」というものです。因みにジブリのプロデューサー鈴木敏夫が主催するラジオ番組「ジブリ汗まみれ」でアニメ監督の押井守との対談の際にノナが幼い頃のハウルでニーニャが若い頃の荒地の魔女である事が判明しています。(次号に続く。)横須賀美術館の企画展やスタンプラリー等取材を記事にしていきます(写真㊦は横須賀美術館取材)。

【川村 古谷】

硬式野球部 春季県大会ベスト16

4月20日土曜、県春季大会、藤嶺藤沢対日大藤沢の試合が等々力球場(川崎市)にて行われた。先攻は藤嶺、後攻は日藤で始まった。結果は1対6となり、藤嶺は惜しくも敗れてしまう。試合は、1回裏、日藤が2点をとり先制点を許した。3回表、藤嶺も1点を取り逆転を狙うが、相手は逆転を許さなかった。その後日藤が4点を追加した。ベスト8に輝いたのは日藤となった。藤嶺の選手も1点を取り、最後まで一生懸命に戦っていた。夏の大会では甲子園へ一戦必勝、勝利を期待する。

監督・選手にインタビュー

試合後、監督の菊地幹先生と試合に出場した大石路也選手(3E)と植松大智選手(3F)に取材をさせて頂いた。

菊地監督は、今回の試合を振り返り「悔しい、今まで取り組んできたことは結果が出たが、取り組まなかったところが、裏目に出た。今度こそは夏の甲子園を目標に、チーム力を上げていきたい」と熱く語った。

大石選手は「チャンスを活かすことができなかった、今度こそは甲子園出場を目標にして頑張っていきたい」と力強く語った。

植松選手は「相手の攻め方に対応できなかった。日藤に負けた反省を生かして、守備も攻撃も精度を上げていきたい。また、守備では、同じ点の取られ方を繰り返してしまったので、今度は色んな技を組み合わせて守っていきたい。」と冷静に語っていた。

【古谷】